

あきる野 ウォッチング！ あんなとこ、こんなとこ

横 沢（よこさわ）

横沢の地名は、平成18年11月1日発行の 45号議会だより「あきる野ウォッチング・館谷」の中で紹介したように、近接する館谷とともに、カミ・シモ、ウエ・シタ、タテ・ヨコなどと同様、相対的な観点から呼びならした地名ではないかといった説があります。

これは、三内橋の下流で秋川に合流する三内川の谷は、ほぼ東西方向なので「タテ」とみれば、岩走神社の下で秋川に合流する沢は、北から南へ流れているので「ヨコ」とみられる。こうした地形から「ヨコサワ」の呼名が起こり、横沢の字を当てたのではないかといった記述が「五日市町の古道と地名」にあります。

Yokosawa



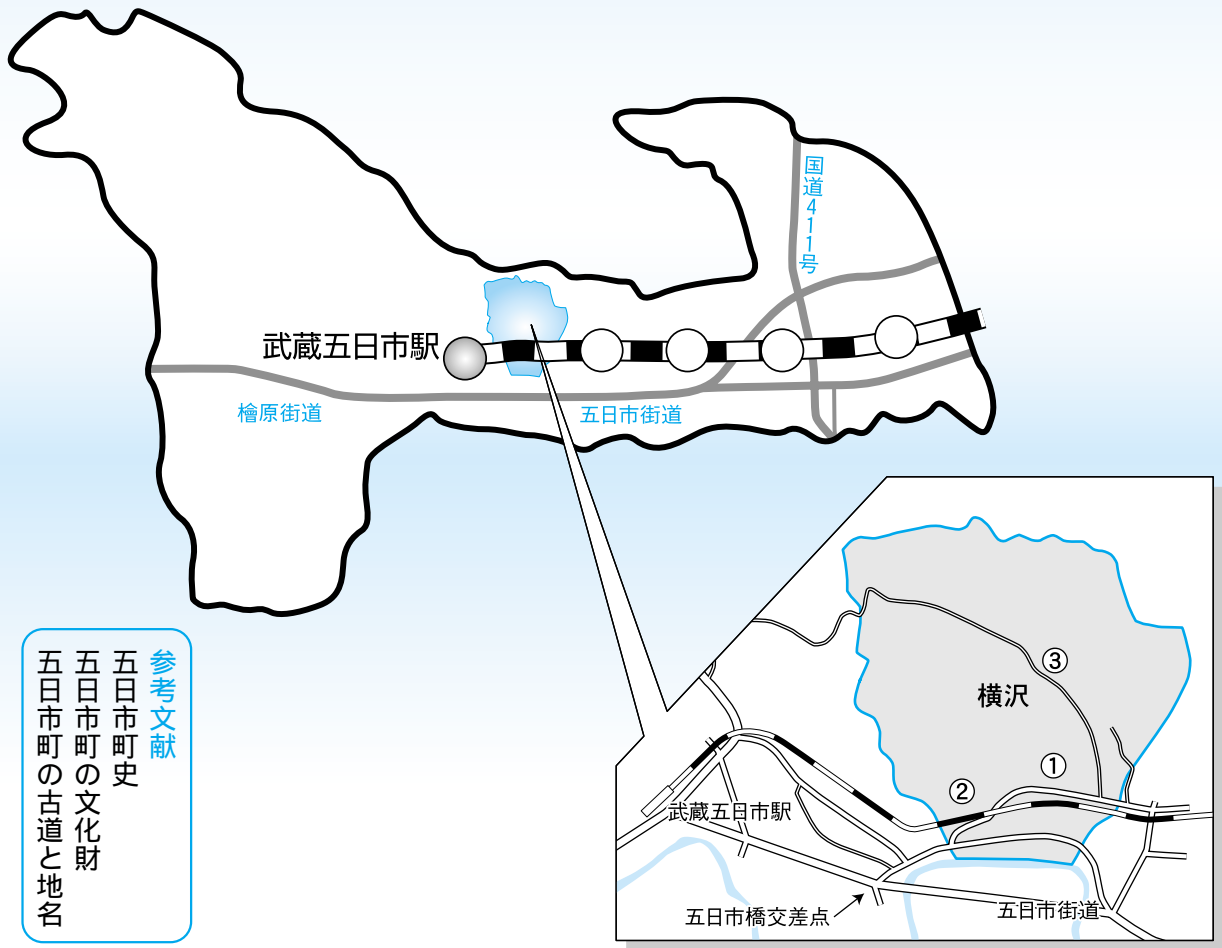
白萩



楼門（仁王門）

大悲願寺は、真言宗豊山派・金色山吉祥院と号し、本山は大和の長谷寺で、聖徳太子が全国行脚の際に、この地に草堂を建てたという伝承があり、寺の後方の山間には「草堂の入」という地名があります。また、建久2年（1191年）に源頼朝の命により、京都醍醐寺の澄秀を開山として、源氏と平氏の一の谷での合戦等で有名な平山季重が創建したといった史実が伝えられています。また、寺には、木造伝阿弥陀如来及び脇侍、千手観世音菩薩・勢至菩薩坐像が国の重要文化財に指定されているなど、多くの貴重な文化財を現在に伝えています。その中のひとつに、独眼竜政宗の名で有名な仙台藩主伊達政宗が、末弟である当山第15世秀雄に宛てた手紙が現存しています。これによると、政宗が寺を訪れた際、境内には、あまりにも見事に咲く「白萩」があり、後日、飛脚をもって所望したことが書かれています。この手紙は、白萩文書と言われ、東京都有形文化財として所蔵されています。今年の秋は、歴史上の人物が心引かれた「白萩」をご覧ください。

大悲願寺（だいひがんじ 横沢134番地）



参考文獻
五日市町史
五日市町の文化財
五日市町の古道と地名

愛宕神社(あたごじんじゃ 横沢127番地)

愛宕神社は、旧横沢村の鎮守であり、^{かくつちのみこと}軻遇突智命を祭神としています。創立は不詳です。神社は、古くは愛宕大権現と称していましたが、明治2年に現在の社号に改めています。かつての神社の格式は、村社であったことが記されています。この横沢村は幾多の合併を経て現在のあきる野市に至りますが、神社は、今もなお地域を見守り続けているかのようです。



愛宕神社

横沢入(よこさわいり)



昭和40年代の横沢入

横沢入は、かつて雑木林の丘陵沿いに湿地が広がり、水田や畑が耕作されていました。昭和50年代以降には、水田等の耕作が減り、環境は荒れた状態になっていきました。その後、平成に入り、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)により宅地開発が計画されていましたが、自然の保護や環境の保全を優先し、この計画を取りやめ、平成17年3月には全ての所有地を東京都に譲渡しました。18年1月には、東京都は、横沢入地区を都内で初めての「里山保全地域」として指定し、以降、里山の自然の保護と回復を積極的に図っています。

また、17年11月には、横沢入地区での里山体験教室を通じて港区との交流が始まり、その後も様々な交流を重ねる中、市内刈寄地区の市有林約20ヘクタールを港区に貸付し、間伐等の森林整備を進めるなど、環境と経済の好循環を実現していくための都市間連携事業へと発展しています。

クイズ

答えの中から正しいものを選び、ハガキに書いてお送りください。

問1 3月定例会は、何日間の会期で行われたでしょうか。

28日間

29日間

30日間

問2 今回の議会だより「あきる野ウオッチング」で取り上げました“大悲願寺”の中に登場した花は、何だったでしょうか。

白萩

彼岸花

コスモス

〔応募方法〕

ハガキに答え、住所、氏名、年齢と議会だよりに対するご意見・ご感想などを書き添えてください。正解者の中から抽選で10名の方に記念品をプレゼントします。

あて先 〒197-0814 あきる野市二宮350番地
あきる野市議会事務局

締切り 5月15日(当日消印有効)

前号の正解は、「22名」「とうがらし」でした。応募総数は57名で、正解者の中から抽選で10名の方に記念品をお贈りしました。

なお、当選者の発表は、記念品の発送をもってかえさせていただきます。たくさんのご応募、ありがとうございました。

春の風物詩～鯉のぼり～



今回の議会だよりが、お手元に届くと5月5日の子供の日が近づきます。

この頃になると、屋外には鯉のぼりが天高く泳ぐ姿を見かけます。

鯉のぼりは、中国の故事で「黄河中流域の竜門は急流で、ここを登った鯉は竜になる」と言われ、関門を突破すると立身出世ができることの例えとされています。「何々の登竜門」という使われ方をよく聞くことがあります。

日本では、古くは武家の出陣の際に用いるのぼりを起源としています。また、幟がしの柄は、時代の流れと共に鯉が主流を占めるようになってきたようです。

近年、子供の虐待など痛ましい事件が報じられています。子供たちは、日本の将来を担う大切な宝物です。いつの時代でも、鯉が滝を登るように、子供たちが元気で力強く難関を超えていけるよう、大人たちは見守ってきたいものです。

読者の方から風物詩へのご意見やご感想等をたくさん頂いております。大変ありがとうございます。頂戴いたしましたご意見等は、今後、機会を捉え掲載していきたいと考えております。これからも、ご意見・ご感想等をお寄せください。お待ちしております。

編集後記

あきる野市が第二の夕張になるという噂が飛んだ。

3月議会で一般質問や予算特別委員会の質疑を通じて、それが根も葉もないことが確認された。

市民を必要以上の混乱に陥し入れるような情報を発信する人は、何の意図があるのだろうか。

逆の効果もある。市民の方々が、今まで以上に市政に関心を持ち、参加意識が強まったとしたら、大変にありがたいことだと思っ
ている。

町田